

石川県

モデル圏域 南加賀圏域、石川中央圏域、能登中部圏域

顔の見える関係づくりと退院支援の強化

石川県では、精神障害の在宅での生活を支援するため、各地域ごとの精神科病院と訪問看護、会議・福祉サービス事業所等との連携体制を構築し、入院初期から退院に向けた調整や退院後の訪問支援の強化に取り組んでいます。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. これまでの取り組みを活かして、当圏域における、地域移行支援を推進する。	・11月2日 第1回地域連絡会実施予定 →9/4開催予定であったが、台風21号の影響で開催を延期 ・県密着ADとの企画検討会 3回実施
2. 地域移行数 3人	・地域移行数 11人(H29年度～現時点)
3.	

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 他職種間同士の連携ができつつある
2. 事例の個別支援について協議できる体制が整っている

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
「1年以上入院患者数」の減少が鈍化	<ul style="list-style-type: none"> ・市自立支援協議会が地域移行のパンフレットを作成。 ・ピアサポーターを増やし、活動の場の広げる。 ・退院可能な患者を把握する 	行政側	制度の周知を図る。ピアサポーターの活用を勧める。
		医療側	制度を周知し、患者や家族の退院意識を高めることが課題
		事業者側	
		関係機関・住民等	福祉サービスに縛られないプランや支援が必要
長期入院患者の地域移行、地域定着支援が進まない	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の情報交換、情報共有を図り、顔の見える支援体制を構築 ・関係者が退院支援を具体的にイメージできるよう地域連絡会において実践事例のグループワークを実施 	行政側	
		医療側	各関係機関とのタイムリーな連携が課題
		事業者側	相談支援専門員のマンパワー不足など、他機関との連携が困難
		関係機関・住民等	既存の福祉サービスに縛られないプランや支援が必要

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値(H30)
①地域移行数	年間ロードマップの成果目標値を参考	11人	11人	3人
②				
※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。				

3 病院（医療機関）との連携状況

- 地域連絡会を通じて意見交換や情報交換、事例検討等を実施

4 現時点での課題・悩み

○課題・悩み

- ・ 地域移行支援の取組に地域格差が生じている。
- ・ 特に病院側の意識が高まらない。
- ・ ピアサポーターの活用が進まない。

○他自治体への質問

- ・ 病院側との連携について
- ・ 介護保険事業との連携について
- ・ 「協議の場の設置」について具体的な進め方等

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 多機関との連携強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・8/9第1回連絡会を開催し、市町・相談支援事業所・医療機関の連携強化を図った。
2. ピアサポート事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・6/28入院患者とグループホーム入所者との交流会にて、ピアサポーター2名に体験談を発表してもらった。
3. 長期入院患者を地域に移行できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・白山市の自立支援協議会に参加し、入院患者向けリーフレットの配布に向けて、準備を進めている。また、白山市主催の連絡会に参加し、医療機関との意見交換を行った。 ・かほく市の自立支援協議会、連絡会及び勉強会に参加し、まず1事例の退院を目標に、連携して取り組んでいく予定である。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

医療機関及び相談支援事業所など関係機関が多い

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)			
患者及び関係機関職員の、地域移行支援事業等についての制度の理解が不十分である	・地域移行支援事業を利用して退院支援した事例紹介及びグループワークを行うことで、制度理解をすすめる	行政側	グループワークを通じて他市町の動向を知り、協議の場の設置について準備をすすめる。		
		医療側	研修会に参加した職員が、所属に持ち帰って復命することで、院内周知を図る。		
		事業者側	制度を理解することにより、地域移行支援事業の活用を促す。		
		関係機関・住民等	地域住民に対する障害への理解を深めるための普及啓発活動。		
		行政側			
		医療側			
		事業者側			
課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由			現状値	目標値(H30)
①未定	未定			未定	未定
②					
③					

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・ 7/20かほく市主催の「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについての学習会」に参加し、今後の取り組みについて話し合いをするとともに、医療機関職員からも意見をいただいた。
- ・ 8/3白山市主催の「地域移行・地域定着支援会議」に参加。医療機関職員も参加し、意見交換を行った。
- ・ 8/9当所主催の第1回連絡会にて、「地域移行をすすめるための、実現可能な取り組みについて」をテーマにグループワークを開催。医療機関の職員にも参加してもらい、現状や今後の取り組みについて語ってもらった。

4 現時点での課題・悩み

- ・話し合いを続ける中で、お互い顔の見える関係が構築され、連携強化につながっているが、具体的な退院支援まで話が進んでいかない。医療機関の参加者は多職種でお願いしているが、参加されるのはいつも精神保健福祉士であり、医療機関内での復命がどの程度行われているのか分からない。
- ・ピアサポーターの登録者は増えているが、活動の機会が少なく、十分な報償費の予算もない。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 各市町職員が長期入院患者の入院先に訪問し、状況を把握する。	・病院側が退院可能で、本人が市町職員と面会しても良いという対象をリストアップ。 ・10月病院訪問予定。
2. 退院可能な対象者の退院に向けて、関係機関と検討する。	・病院訪問し検討予定。
3.	

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 管内精神科病院と市町、相談支援事業所等関係機関と顔が見える関係ができている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
精神科病院と地域との連携が不十分である。	管内精神科病院が少なく、危機的状況時に対応できる体制をつくる。	医療側	社会資源が少ないため支援に限りがある。
		事業者側	相談支援専門員(行政職員も含む)などマンパワー不足により連携が取りづらい。
		関係機関・住民等	
精神障害についての不安を持っている事業所もあり、積極的に関わっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い圏域であるため、精神障害者関係機関・事業所だけでなく、介護関係事業所など広範囲に連携体制の構築。 ・ピアサポーターを活用して不安を軽減。 	行政側	

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値(H30)
①				
②				
③				

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・年2回地域生活支援連絡会やケア会議等で情報交換し、支援体制がとれるよう連携している。

4 現時点での課題・悩み

- 地域側は病院の実情が分からない、病院側は地域の実情が分からない、という問題がある。
- 市町によって取り組み状況に差がある。